



2006
APRIL
No.38

大 精

contents

館長エッセイ 宇野 史郎	1
特集：図書館と私	2～5
news news	6
シリーズ：利用者サービス⑤	6～7
informations	8～9
17年度利用統計	9
staff column 横田 かおり	10
図書館日誌	10

館長エッセイ

まちの魅力と図書館

皆さんは、いま自分が住んでいるまちに魅力を感じていますか。恐らく、多くの人々は「まあまあ、感じている」ということになるでしょう。住めば都（みやこ）といわれるように、住み慣れればどんな僻地でも住みよくなると思われるからです。これまで、わたしたちはまちのあり方に無関心でありすぎたのではないのでしょうか。そこに安住してしまえば、まちの魅力に輝きを灯すことにはならないでしょう。

こんなことを思いながら、まちの魅力と図書館について考えてみました。「図書館がなかったら今の自分はなかった」と、思う人はわが国にはどれくらいいるのでしょうか。日本図書館協会理事の常世田良先生の「まちづくりに貢献する図書館」についてのお話を聞いて、また『未来をつくる図書館－ニューヨークからの報告』（菅谷明子、岩波新書）を読んで、考えさせられました。

アメリカでは「引っ越したらまずは図書館へ」といわれるという。地域の地理や交通機関、子供たちの学校、医療機関などの市民生活に必要な情報を図書館の司書をとおして収集することが定着しているとのこと。まさに、図書館は地域コミュニティの情報センターとしての役割を果たして

いるとよいわけです。

わが国で、引っ越したら一体どこにいて生活に必要な情報を手に入れているのでしょうか。都市化した社会では、近所付き合いが薄れているだけに、かつてのように地域コミュニティのなかで収集するのは困難になっています。情報は過剰化する一方で、生活に必要な情報収集には住民の間で格差が広がっているのではないのでしょうか。いくら情報があっても、その存在が知られ、活用する方法が準備されなければ、情報は存在しないのと等しいのです。それだけに、図書館員の資質として情報を紡ぐ編集能力、各種支援体制を整える企画能力、業務を遂行していく運営能力、利用者とのコミュニケーション能力、他機関との情報交換するネットワーク能力等が求められます。

わが大学図書館も、図書を閲覧し、貸出す空間としてだけでなく、利用者の夢を育み、実現するための「孵化器」としての役割を果たさなければなりません。そのことが「地域に貢献する大学」として、町の魅力づくりに一役買うことにもなるものと考えます。わが大学は「図書館なしでは、熊本学園大学ではあり得ない」と、いわれるようにしたいものです。

宇野 史郎 (うのしろう)

商学部教授
専門：都市流通とまちづくり
平成16年1月から図書館長
「利用者の夢を育み、実現するための『孵化器』としての役割を果たす図書館へ」



Uno Shirou

図書館を上手に活用しよう

図書館は大いに利用してこそ、存在価値が高まるもの。大学内外のいろいろな情報を得るために絶好の場所がここに 있습니다。授業の空き時間や放課後に立ち寄るだけでも、きっと新しい発見があるはず。今回の特集は、図書館委員の先生方に「図書館」にまつわる自らの経験や利用法などを語っていただきました。みなさんもそれぞれに「自分なり」の利用法を見つけて、図書館を上手に活用してみませんか。



「アタマがさるく場所、図書館」

商学部 山田 美幸

図書館は出逢い。
図書館は創造。
図書館は楽しみ。
図書館は発見。
図書館はくつろぎ。
図書館は集い。
あなたにとっての、図書館は…?

‘今の’私にとって、図書館とは、アイデンティティと言っても過言ではない。例えば心地よい空間のBarに出かけても、「図書館とBarの空間要素を結びつけたら、どうなるだろう」と思考する始末である。ちなみに、図書館についての古い脳の刻みを探るならば、私が5歳くらいの折に祖父母が近隣の公共図書館に連れて行ってくれたことが最初のページだろう。もし、この思い出がなければ、あくまで図書館の一利用者に過ぎなかったかもしれない。ましてや、図書館の仕組みを考える立場になろうとは夢にも思わなかった。

では、「図書館の利用法をば…」と言われても、正直なところ皆さんに立派だと評されるような使

い方をしているわけではない。書架の間をうろろろしてみては、背表紙に凝縮された著者のメッセージを紡いでみたり。また、日頃手にしそうな類の雑誌に目をとおしては、「18歳のファッション動向はどうなっているのだろう」と現代社会に触れてみたり。森羅万象を凝縮した蔵書の森を歩き回っては、立ち止まって、新たな発見をしては、ほくそ笑む。と同時に「知らなかった自分」に気づき、「明日からガンバロー」なんて独り励ましをする。そして、「あーでもない、こーでもない」とアタマの訓練をする。勿論、迷うこともあり。そんな使い方も図書館の醍醐味の一つだと思ふのだが、いかが？

しかし、蔵書の森で迷うことが楽しすぎるのも困り物である。時には、森の外にでて、実体験を試みることも必要である。

欲しい情報が見つからなかったり、オススメの本を知りたかったら、ぜひ情報のナビゲーターである司書に遠慮なく尋ねてみて欲しい。あなたが手にしたい一冊に出合わせてくれるかもしれない。

(やまだ みゆき：図書館情報学)

こんなときどうする？

図書館の利用方法や注意事項についてのポイントを簡単に紹介します。みなさんも気軽に訪ねてみてください。1日1度は図書館へどうぞ！

●図書館に入るには

利用者カードを兼ねている「学生証」が必要です。入館の際に入館ゲートのリーダーポストに通ってください。忘れたときはカウンターをたずねてください。



図書館中心のキャンパス生活の薦め

経済学部 小柳 公洋

私自身の図書館の利用の仕方のもっぱら教員としてかつ研究者として利用しますので、大学図書館の持っている能力のほんの一部しか現実には利用していないと危惧しています。したがって、私の利用方法は多くの学生諸君にはあまり役立たないと思われれます。そこで、30年近く前スコットランドはエジンバラ大学に研修に行ったとき、学生たちが図書館をどのように利用していたかを、紹介したい。

彼らは大学に来ると基本的に図書館か学生会館で過ごしています。エジンバラ大学では学生会館（ユニオン）が比較的外部にあったこともあって、また、特に冬季は非常に寒いので屋外にたむろするなんてできないこともあって、多くの学生が図書館を拠点にして大学生活をおくっておりました。彼らは図書館から講義を受けに出かけます。講義が終わるとまた図書館に帰ってきます。図書館はエジンバラ大学においては一番大きな建物で、読書に飽きたら、地下のホールに行き簡単なスナックを

食しながら知人たちとの会話に気分転換ができるし、または書架にかかっている膨大な本の表題をズーと見て歩けるし、自分の調べ物や講義での課題などの専門上の文献について司書にたずねることができた。100年は遅れているといわれた当時の日本の図書館しか知らなかった私にとっては、新鮮でした。それから30年近くたち、日本の図書館の整備も急速に改善され、それほど彼我の間での遜色はなくなってきたように思います。本学の図書館もハード面、ソフト面において十分にそのポテンシャルを有しています。

現在、IT技術の導入によって図書館も大規模な変革の時代を迎えています。図書館を中心としたキャンパス生活を享受することは、依然として、高等教育機関としての大学の有するポテンシャルのなかの最も核心となるものを享受することにほかなりません。新入生諸君にあっては、ひとつの選択肢として図書館中心のキャンパス生活を送られることをお勧めします。

（こやなぎ きみひろ：経済学史）

こんなときどうする？

●本を読みたい

各階の閲覧室の資料は書架から自由に取り出して利用できます。利用が終わったら返却台へ

●新聞を読みたい

玄関に入って左側の新聞展示室で当日の国内新聞約20紙を閲覧できます。前日までの新聞は2階の新聞コーナーへ

●雑誌を読みたい

2階フロアに和（日本語・中国語・韓国語）雑誌、3階フロアに洋（外国語）雑誌を配架しています。

●ビデオやDVD、CDを利用したい

2階AVカウンターで手続きをしてください。AVコーナーで視聴できます。一部の語学資料は借りることができます。

●どんな本があるか調べたい

大学で所蔵している図書・雑誌・AV資料は検索用のパソコンを使って簡単に調べることができます。

●本を借りたい

本と利用者カード（学生証）をもって1階カウンターへ。必要な冊数を学部生は2週間（大学院生は1ヵ月）、借りることができます。長期貸出や本の予約については1階カウンターでたずねてください。

●本を借りる際の制限は

雑誌やAV資料、2階参考図書など貸出ができません。また、延滞している図書がある場合は新規の貸出はできません。

●読みたい本がない

読みたい本が貸出中のときはカウンターで予約をしてください。所蔵していない場合はリクエストもできます。



アジアの図書館

外国語学部 西 紀昭

木版印刷は中国の北宋時代から始まった印刷術で、南宋時代に入り大量の書物が出版されるようになった。出版された時代により、宋版・元版・明版などと呼ばれる。

宋版や元版は現存するものが少なく、貴重な文化財である。これらの版本の保管・閲覧方法は国によって異なり、それぞれ特色がある。私の体験した日本・中国・台湾の各図書館の閲覧方法を紹介してみたい。

日本：国会図書館・内閣文庫・静嘉堂文庫等が多くの宋版・元版を所蔵している。内閣文庫は徳川幕府の昌平坂学問所の蔵書を静嘉堂文庫は岩崎財閥が中国の蔵書家陸心源の蔵書をまとめて買い取ったものが基礎となっている。

閲覧方法は共通で、使用目的を明記して申請すれば、現物を手にとって見ることが出来る。コピーはマイクロフィルムにとってあるものは、申請して三日後に受け取ることが出来るが、マイクロフィルムの無いものは写真撮影から行うので一週間以上かかり、費用もかさむ。マイクロがあれば費用は一枚50円ほどである。

台湾：国家図書館が主要な図書館で、かつて故

宮博物院にあったものもかなりこちらに移されている。蒋介石の国民党が台湾に移った時、大陸から持ち出したものが基礎となっている。

閲覧方法は最も簡単で、すべての貴重図書はマイクロフィルムに収められており、一般図書と同じ簡単な手続きでよい。コピーは閲覧者が自分でコピー出来て便利である。マイクロから直接コピー出来、1分間に3枚の速度でコピーできる。費用も一枚4元（15円）と安い。

中国：中国古典籍の本場で全国の図書館・大学図書館に多くの宋・元版が所蔵されているが、大学図書館や地方の図書館は閲覧不可の所が多い。

国家図書館は比較的開放的である。しかし、現物とマイクロで閲覧カードの値段が違う所が中国らしい。マイクロのみの読者カードは5元（75円）現物を見るカードは100元（1500円）である。コピーは高い。宋版は1枚150元（2250円）、元版は1枚120元（1800円）である。しかし、時間は速い。3日後受け取りとなっているが、急ぐ理由を述べれば、2時間で渡してくれる。忙しい時は便利である。

（にし のりあき：中国文学史）

こんなときどうする？

- **インターネット利用やレポート作成のためにパソコンを使いたい**
1階スタディールーム、2階201グループ学習室のパソコンが使用できます。それぞれのカウンターで手続きをしてください。
- **レポート作成のための資料がほしい**
2階レファレンスカウンターで、必要な資料や情報を探すお手伝いをします。また、必要に応じて他の情報機関、他大学図書館への紹介もします。お気軽にご利用ください。

- **本学にない図書や雑誌などの資料がほしい**
2階レファレンスカウンターにご相談ください。他大学図書館から資料を取り寄せることができます。
- **新聞記事や雑誌掲載の記事、論文を調べたい**
各種データベースが利用できます。詳細は2階レファレンスカウンターでたずねてください。



ハレ大学図書館

社会福祉学部 篠塚 敏生

1995年9月から1年間、在外研究で中部ドイツのマールティン＝ルター・ハレ＝ヴィッテンベルク大学に留学したが、留学期間の大部分を大学図書館の読書室で過ごした。建物自体は、本学図書館のような大規模なものではなく、図書館から来る威圧感にはなかったが、その中に入ると、歴史と伝統を十分に感じさせた。竣工1880年の本館は2階建ての建物で、周囲の建物のなかに蔵書が分散していた。

ハレ大学は1694年にブランデンブルク選帝侯国の大学として創立された。学生数は1994年夏で1万1026人。ザクセン＝アンハルト州立図書館でもある大学図書館は、1996年に創立300年を祝い、蔵書数は大学全体で400万冊、そのうち約半分が中央図書館の書庫にあった。

2階の読書室のカウンターで図書を受け取るまでの間、カウンター前のテーブルで他の人が発注した図書を眺めていると、16世紀、17世紀の図書もあったので、手に取ってパラパラ捲ると、いつの間にかその中に吸い込まれて、古書を捲る快感を初めて味わった。

歴史研究所の図書館では10月には暖房が入ったが、大学図書館では11月でも暖房がなかった。そのうち突貫工事が始まり、読書室でも鉄管を電気ノコギリでギイギイ音をたてて切るのには閉口した。図書館は午前8時から午後9時まで開いていたが、午後7時頃には利用者はゼロになり、扉には、利用者はベルを押してくれ、との張り紙が出た。午前中、読書室にいと、体がガタガタ震えてきたので、半日で切り上げた。

年が明けると、1月2日には開館し、暖房も入っていたので、利用者の数も多かった。学生は、図書館で勉強するのが習慣のようで、いつも多くの学生がいた（日曜日は休館）。ハレの10年前に留学したハンブルク大学の中央図書館でも、学生が一杯であった。この図書館はハンブルク州立図書館でもあったので、それはそれ大図書館で、館内で静かに学生は勉強していた。その熱気は十分感じられた。パソコンで図書を注文し、翌日カウンターで受け取るシステムであったので、とても便利であった。

(しのづか としを：西洋史概論)

こんなときどうする ?

● 図書や雑誌のコピーがしたい

著作権法に認められた範囲内で所蔵資料の複写ができます。

「文献複写申込書」に記入し、各階のコイン式複写機を利用してください。

● ひとりで集中して勉強したい

2階・3階に研究個室（15室）があります。手続きは2階レファレンスカウンターで

おぼえておこう !

● 休館日は

休館日や臨時休館・開館時間の変更は「としよかんニュース」や掲示・ホームページによりお知らせします。

● 利用できる時間は

授業期間中の月曜日から土曜日は9:00から23:00まで、日曜日は10:00から17:00まで利用できます。休業期間中は利用できる時間、フロアが一部異なりますので利用案内などで確認してください。

平成 17 年度学生懸賞論文入賞者決定

平成17年度学生懸賞論文は7篇の応募があり、図書館委員会委員と専門審査委員による審査を経て、入選4篇、佳作3篇の入賞者が決定しました。今回は特選論文はありませんでした。

表彰・賞金授与式は、平成17年12月14日午後12時30分から図書館A Vホールで行われ、宇野館長をはじめ論文審査にあたった教員、関係者約25人が出席しました。表彰式に引き続き行われた発表会では、入賞した学生4名（写真）が論文を作成するにあたっての問題意識や苦勞などについて、緊張しながらも懸命にスピーチしました。

なお、入賞論文については「平成17年度学生懸賞論文集」として平成18年2月に発行され、図書館3階研究紀要コーナーで閲覧できます。

《特選》 該当者なし

《入選》

下川友香（商学科3年）大学生の視点から考える熊本市中心商店街活性化
 武田里英加（商学科3年）ユニクロが成長した理由－急成長の裏側－
 麻生美佳（経営学科4年）熊本における土産菓子産業の課題と展望
 田上智大（国際経済学科4年）地球温暖化問題 京都議定書に隠された
 先進国に対する公平、発展途上国に対する不公平－Fair or unfair－



《佳作》

岡本ゼミ（国際経済学科3年）大衆消費社会と消費者信用－カード社会の分析－
 永友祥子（国際経済学科4年）豊かさの追求と幸福の尺度
 高木加代子（経済学科4年）ハリウッドによる映画のリメイク－オリジナル映画の価値の再確認－

就業体験実習受入れ

3月8日・9日、熊本市立総合ビジネス専門学校のインターンシップ学生（大久保真弓さん・森岡阿貴さん）2名が、職場体験実習に臨みました。この実習は大学事務局各部署の業務実習を行うもので、図書館では2日間の実習となりました。

図書館での実習は1階メインカウンターでの閲覧業務、図書の貸出・返却が主な業務でしたが、職員といっしょに新聞資料（ダンボール箱約200個）の書庫への移送作業（写真）も行いました。今回の実習を終えて、「図書館のみなさんの地道な作業や心遣いによって、利用者の人たちが気持ちよく本を借りることができるのだと思いました」「図書館の仕事は本を貸し出すという基本的なことしか知りませんでしたが、本を貸し出せるまでには細かい作業と過程が必要だと知りました」といった感想が聞かれました。



シリーズ
利用者サービス⑤

特設コーナー

*特設コーナー

1階中央左側に設置されている特設コーナーは、皆さんの大学生活に関連する図書をテーマを決めて常時展示しています。

“Enjoy! 大学生活”としてキャンパスライフに関するもの、“小論文・レポートの書き方”“情報収集術を身につけよう”“授業科目の参考文献”など講義やゼミの参考になる図書が豊富に揃っています。「覗いてみる価値は大いにあり」です。貸出は一般図書と同じ扱いとなります。



蔵書点検実施

平成18年2月9日から13日の入学試験期間（休館日）を利用して、蔵書点検を実施しました。今回は1階フロアに配架してある一般図書を点検対象とし、予定した期間内に無事終了することができました。

蔵書点検を終えて

図書館に所蔵している資料は的確・迅速に利用できる。そのために図書には所在の番地であるラベルが貼ってある。あるいは図書館は何層もフロアが分かれているので配架場所ごとに識別のテープも貼ってある。こういう細々とした規則どおりに本が並んでいないと困るので、蔵書点検という仕事がある。

この度、現図書館に引っ越してから2回目の蔵書点検を実施したので、そのレポートをしてみたい。

対象は、1階フロアの開架図書11万冊とし、大学の入学試験中の休館日5日間を充てた。この仕事も当然システム化されているが、その11万冊のバーコードラベルやOCR文字を1個ずつ読み探っていくことになるので天文学的作業である。5台のパソコンと10数名の人員で4日間を要した。残りの一日は不明本の調査に充てることができ、利用者に迷惑をかけることなく翌日から開館できたのはよかった。

ではどういう結果だったかというと、読み採りミスや誤配架、不明本など合わせて初期値としては2000冊を越えていたものが、その後の調査で300冊くらいの不明本となった。これらの本は何らかの行き違いで利用者の手にあるか、図書館のどこかに眠っているか、無断持ち出しされたものであろう。その数が多いか少ないかは見方の問題であろう。日頃の仕事が的確にこなせていないという

反省でもあり、利用者のマナーの反映ということでもある。

いま1階の開架図書はあるべき本があるべき所にきちんと並んでいる。システム化された究極的な図書館は、欲しい本がボタン一つで目の前に現れることかもしれないが、時間がたっぷりある学生は書架を廻り、本を手にとってあれもこれもと指触を伸ばしてほしい。利用が増えれば管理が難しくなることは自明であり、あの「小さな単一色」のラベルどおりに並ばないことにもなる。小さなということは、ラベルで情報を隠さないこと。単一色ということは手書きの時代は分野別に色を換えていたが、プリンターより排出するようになってからはラベル用紙を取り替えることはできなくなったことによる。それでも毎朝、利用に不便がないように棚整理は欠かしていない。

せっかく苦勞した蔵書点検は、結果が出た翌日から白紙に戻る。利用と管理の二律背反に悩む日常が始まる。この文章の冒頭とは矛盾するかもしれないが、的確・迅速が担保されないこともある。しかし所蔵の有無にかかわらず必要な資料は「草の根を分けても探す」姿勢で、利用者とのいい関係を持ち続けることを再確認した蔵書点検であった。

（奉仕係 津村秀夫）

*参考書・問題集コーナー

2階201学習室前に設置されている参考書・問題集コーナーには、就職試験や各種公務員試験、会計士・税理士などの各種免許や資格取得のための参考書、問題集を揃えています。OPAC検索はできませんので、実際に自分の目で見てピッタリな本を探してください。

このコーナーの図書は貸出不可となっています。館内のみでご利用ください。



学生懸賞論文募集要項

- ◆テーマ：自由論題
- ◆応募資格：本学学生（大学院生・研究生・科目等履修生を除く）
- ◆応募期限：平成18年9月30日（土）12：30
- ◆提出先：図書館4階 事務室
- ◆審査方法：図書館委員会と専任教員の審査にもとづき、教授会の議を経て決定。
- ◆懸賞金：特選=賞状および賞金10万円
 入選=賞状および賞金5万円
 佳作=賞金2万円
 奨励賞=図書カード5千円
 ※入賞者(特選・入選)の論文については、「学生懸賞論文集」として発行。
- ◆入賞発表：12月上旬(予定)館内掲示板ならびに、ホームページで発表。
- ◆表彰式：12月中旬(予定)。入賞者(特選・入選)による報告会も開催。
- ◆応募の注意
 - ①応募は、一人一篇(共同執筆も可)とし、未発表の論文とする。
 - ②パソコンまたはワープロ(A4用紙)で作成し提出すること。
 ※(和文・中国文・韓国文：1行40字×40行、英文：1行70字×28行)
 - ③応募論文は返却しない。
 - ④別紙の「平成18年度学生懸賞論文応募票」を添付して提出すること。

図書館ガイダンスの案内

図書館では新生を対象とした「図書館ガイダンス」、2年次以上を対象とした「ステップアップガイダンス」を実施しています。充実した大学生活を送るため、この機会に図書館活用法をしっかりとマスターしましょう。

	新生（初歩的な図書館の使い方を説明します）	2年次以上（1年次も含む）
学部学生	<図書館オリエンテーション> 実施日：平成18年4月6日（木） 時間・場所：新生オリエンテーションプログラムを参照 内容：図書館紹介ビデオ『A Library Story』の上映	※論文やレポート作成のための資料収集、検索を実施します <ステップアップガイダンス> 時期：5月中旬～ 内容：ビデオ『新・図書館の達人』の上映、データベースを使った資料収集など 実施形態：授業科目単位 （担当の先生から予告があります）
	<図書館ガイダンス> 実施時期：平成18年4月中旬～6月中旬 時間・場所：担当の先生から予告があります 内容：蔵書検索の実習、館内ツアーなど	
大学院	実施日：平成18年4月5日（水） 時間・場所：午後2時～ 図書館地下AVホール 内容：データベースの紹介、書庫利用法の説明など	図書館2階レファレンスカウンターで随時受付

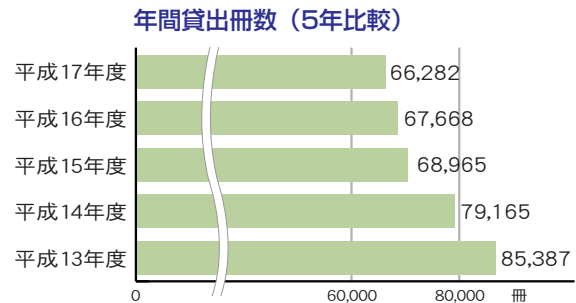
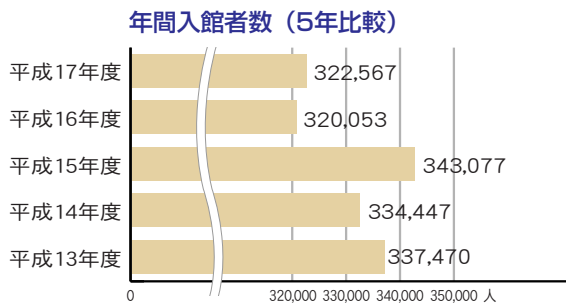
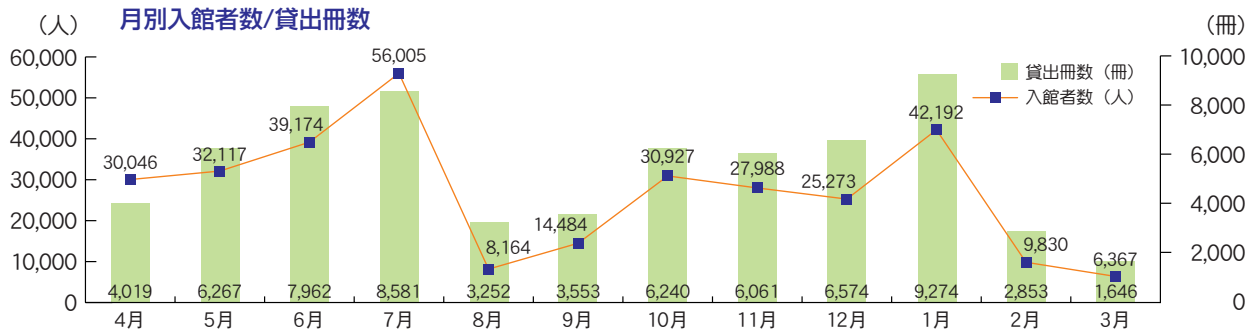
◆執筆要領

- ①論文には表紙をつけ、論題のみを記入。なお、表紙は枚数に含まない。
- ②和文：原稿用紙(400字詰め) 8000字～16000字以内
 英文：横書き・ダブルスペースで上記字数に該当する程度。
 中国文・韓国文の場合、上記字数に該当する程度。
- ③著書や新聞等の文献から引用した場合、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月・頁等）を明記すること。ただし、ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記すること。
- ④図表等は枚数に含む。それらを引用した場合、出所を明記すること。

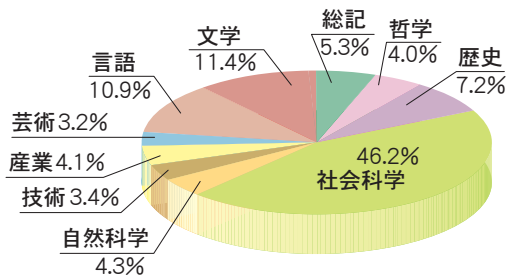
入館ゲート更新

現図書館の開館以来、利用してきた入館システム装置に不具合が生じるようになりました。その改善のために、この度入館ゲートならびにシステムを更新しました。入館は「学生証または図書館利用者カードをスキャンする」方法で従来と同じです。

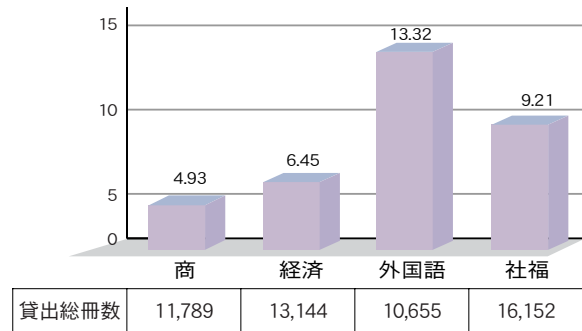




分野別貸出比率



学部別一人あたりの貸出冊数



※商学部および社会福祉学部は、第一部・第二部を合わせた数値

図書館利用者カード発行について

平成18年度の図書館通年利用を希望される方は、以下の要領で図書館利用者カードの発行手続きをお取りください。

- ・ 手続期間：①卒業生ならびに在学生の保護者…… 3月を除く通年。
②上記以外の一般の方…… 4月～5月、10月
※②に該当する方については、発行手数料1,000円が必要となります。
- ・ 受付時間：月曜日～土曜日 9:00～21:00
- ・ 必要書類：本人の証明と、住所の確認ができるもの（運転免許証・健康保険証・パスポートなど）卒業生の方で平成16年度以降に利用者カードを作られた方は、手続きの際に必ず利用者カードをお持ちください。
- ・ 有効期限：平成19年3月31日
※新規で申し込まれたカードは、後日郵送となります。

見学者

17.12.2

大田大学校（韓国）8名

18.1.18

深圳大学キャンパス建設視察団（中国）6名

2.21

信愛女学院高等学校 3名

3.17

大津高等学校 126名

行事

17.12.14

学生懸賞論文表彰式

12.27～18.1.5

休館（年末年始休業）

1.21～22

休館（大学入試センター試験）

1.29

秋学期定期試験特別開館

2.9

休館（全学部全学科入試）

2.10～2.13

休館（一般入試A日程）

2.9～2.13

蔵書点検

2.6～3.28

春休み長期貸出

3.1

図書館委員会

3.5

休館（一般入試B日程）

3.25

休館（入館ゲート工事）

3.31

休館（年度末処理）

staff column

新しい出会いと発見をもとめて

閲覧係を担当して一年が経った。利用者サービスは毎日どんな本やどんな人に出会えるのかとかわくわくすることばかりのような気がする。閲覧係の仕事は図書館の案内役だ。誰にとっても図書館は使いやすく、分かりやすいところになるよう細かなところにも気を配らなければならないと感じている。地下書庫に入れない利用者には、探しているものに類するものが書庫にあれば、取り出して紹介するし、本学に所蔵していなくても、近くの公共図書館においてあればその案内をすることもできる。私はいつも、図書館を利用するみなさんに、何かできることはないか、自分が利用者だったらどんなサービスだと満足できるかと考えながらカウンターに立つようにしている。

また閲覧係の仕事は単に図書館の使い方について案内するだけではなく、人と本とを結びつける案内役でもある。「面白そうな本がたくさんあるな。」と思ってもらうには、展示のしかたにも工夫がいるし、何よりもまず、私たちが本について幅広い知識を持たなければならない。図書館が毎月発行する『と

しょかんニュース』には新着図書を紹介するコーナーがあるが、どのような本を学生のみなさんにお薦めしたらよいかといつも悩んでしまう。専門書や教養書など、多くの分野から選ぶのは本当に難しい。周りのスタッフと話し合いながらテーマを考え、選書したのだからこそ、誰かがその本を手にとってくれたときは本当に嬉しくてたまらない。

本と向き合っている仕事が楽しく、面白く感じられるのは、このように利用者のみなさんと接することで毎日新しい出会いと発見があるからだと思う。質問や相談が多様であるほど、その経験からたくさんのお話を学ぶことができ、次のサービスにつながっていくのだ。みなさんにとっても図書館を利用することで、また本を読むことで新たな発見ができたり、別の分野に興味をわいたり、もっと知りたいと思ったり…など何か変化がおきることを願っている。これからもより多くの方に「図書館に来てよかった」と思ってもらえるようなサービスを心がけていきたい。

（閲覧係 横田かおり）

編集後記

新年度を迎え、一年でいちばんにぎやかな季節がやってきました。

今回は、図書館利用の「きっかけ」を見つけていただくための特集を組みました。読書や資料収集のみならず、感性や発想しだいで、利用法は無限に広がります。これを機会に、ぜひ「図書館」を訪ねてみてください。1日一度は図書館へどうぞ！

携帯電話で下記URLに接続してください。

URL : <http://www1.lib.kumagaku.ac.jp/limedia/i/index.html>

バーコード読取機能がある携帯電話では、こちらのQRコードでアクセスできます。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



大楠 第38号

2006年4月10日

編集・発行 / 熊本学園大学付属図書館
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL (096) 364-5161 FAX (096) 362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>